

白金・白金台地域における新規交通手段のモニター実験の結果について

1 モニター実験の概要

- ・実施期間 平成30年6月1日から8月31日までの3か月間
(平成30年9月から11月 アンケート実施、効果検証)
- ・対象地域 白金・白金台全域
- ・対象者 港区コミュニティバス乗車券受給対象者
- ・タクシー呼出方法 無料配車アプリ「フルクル」を使用
- ・モニター登録要件 4人一組で登録
- ・利用形態 モニター同士2人以上の相乗りを条件
- ・募集人数 100組400人
- ・利用料金 1回の利用につき初乗り運賃410円を補助

2 モニター実験の結果

(1) モニター組数と人数

モニター実験の参加は24組96人で、募集に対して24%でした。非モニターヒアリングでは、モニター実験に申し込まなかった理由として、「4人集められなかった」が50%で、4人一組の登録要件に課題があったことが分かりました。

(2) 利用回数

利用回数は、一組当たり平均7.5回で、想定の25%でした。モニターアンケートでは、相乗りの相手が見付からなかったために利用を「ほとんど諦めた」が55%、無料配車アプリを「スマートフォンを持っていない」ために利用しなかったが51%でした。

2人以上の相乗り利用が困難であったこと、スマートフォンを持っていない方の利用が困難であったことなどが分かりました。

(3) 利用実績

モニターアンケートでは、利用目的地は、最寄駅が37%、いきいきプラザが11%となっており、近距離の目的地への移動手段として利用されていたことが確認できました。

3 検証結果

モニター実験では、最寄駅やいきいきプラザ等の近距離の移動手段として利用されていたこと、無料配車アプリは必要な時に呼び出して利用できたことなど、交通不便地域の新規交通手段としての有効性が一定程度確認されました。

一方、登録に必要な4人一組を集めることが困難であったことや、スマートフォンを所有していない方の利用が困難であったこと、相乗りの相手が見つからず利用できなかったことなどの課題が明確になりました。これらの課題は、モニター登録者が募集の24%であったこと、利用回数も想定の25%であったことの一因であると考えられます。

今回、スマートフォンを所有していない方でも利用できるよう、4人一組での登録要件としましたが、モニターアンケート及び非モニターヒアリングでは、4人集めることが非常に難しいことが明らかになりました。

登録要件を4人一組から人数を少なくした場合、スマートフォンを持っていない方への配慮が難しくなるという課題も生じることから、登録要件とスマートフォンを所有していない方への利用の配慮という2つの課題を同時に解決する方策が見出せない状況です。

また、一般タクシーを地域交通として活用するため、2人以上の相乗りを条件としましたが、相乗り相手を見つけることが困難であることに加え、普段1人で出掛ける方が多いなど、相乗りの困難性も明らかになりました。

これらの課題については、一般タクシーの無料配車アプリを利用したデマンド型相乗りタクシーでは、有効な改善策を講じることが困難な状況です。

以上のことから、本格実施は見送ることとし、今後も、新規交通手段の検討を継続します。